

新学習指導要領の趣旨を生かした授業づくり

中学校道徳

1 改訂の趣旨

- 子どもたちの実態や指導上の課題を踏まえ、学校や学年の段階ごとに道徳教育で取り組むべき指導の重点や特色を明確にし、人間としての生き方や社会とのかかわりを見つめさせる指導を充実する。
- 学校全体で取り組む道徳教育の実質的な充実を図る視点から、道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進体制の充実を図る。
- 豊かな体験や道徳的実践を充実させ、道徳の時間と関連を持たせることにより、生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。

2 改訂の要点

(1) 目標（道徳の時間における目標の改善）

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

「人間としての生き方についての自覚」の前に「及びそれに基づいた」を加えることにより、人間としての生き方が単に行為の善悪や方法を求めるだけでなく、道徳的価値に裏打ちされた人間としての生き方についての自覚を深め、よりよく生きるための道徳的実践力を育成するものであることを一層明確にしている。

(2) 内容

内容項目を示す冒頭に「道徳の時間を要^{かなめ}として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする。」を加えている。
内容項目については、小学校との関連性や系統性から改善が図られている。また、2-(6)に「感謝」についての項目を新しく設けている。

(3) 指導計画の作成

道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成することとしている。

ア 道徳教育の全体計画

道徳の内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要がある。

イ 道徳の時間の年間指導計画の作成

示されている内容項目は、いずれの学年においてもすべて取り上げる。各学年においては、生徒の発達段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図る。

(4) 道徳の時間の指導

生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を促すこと、書いたり討論したりするなど表現する機会を充実させることなどが具体的に示されている。

3 新学習指導要領全面実施に向けた授業づくり

(1) 体験活動を生かした授業づくり

体験活動を生かした道徳授業を行っていくためには、体験活動との関連を図った年間指導計画を作成することが大切である。それにより、道徳の時間以外で行われた体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かすことや体験活動の活動内容と似た題材を用いることなど、体験活動との関連が図りやすくなり、相互の指導効果を高めることが可能となる。

(2) 魅力的な教材を開発・活用した授業づくり

教材を開発する際には、生徒が自ら課題に取り組み、自己や他者との関係を深く見つけ、生きる希望や勇気を見いだすことができる等の要件を踏まえる必要がある。また、名作、詩歌、論説などの読み物、郷土教材、映像ソフト、実話、漫画など、多彩な形式の教材に着目し、教材発掘に努めることが大切である。

(3) 表現する機会を充実させた授業づくり

討論する場を設定する際には、ネームカードなどを効果的に取り入れ、自分の立場を明確にした上で、討論に臨ませる必要がある。自分の考え方や感じ方を言語化し、他者と討論することなどを通して、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように表現する活動の内容や場面を工夫することが大切である。

4 移行措置

- 平成21年度から新しい指導要領の規定によるものとする。
- 授業時数は、現行と同じである。

〔資料1〕内容の改善とポイント解説

内容項目	主な内容の改善点	ポイント解説		
1 主として 自分自身	○これまでと変更はない。	○規範意識を高め、生徒の自立心や自律性の育成を重視 ○目標を持ち、よりよく生きようとする積極的な態度を育成		
2 主として 他の人との かかわり	<table border="0"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [現行] 2-(2)「～感謝と思いやりの心をもつ」 (5)「～、謙虚に他に学ぶ～」 </td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [新] (2)「～思いやりの心をもつ」 (5)「～、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ」 (6)「～感謝し、それにこたえる」 </td> </tr> </table> <p>○2-(2)から「感謝」を取り出し、新たに2-(6)に「感謝」の内容項目を設けている。 ○2-(5)に「寛容の心」を持つことを加えている。</p>	[現行] 2-(2)「～感謝と思いやりの心をもつ」 (5)「～、謙虚に他に学ぶ～」	[新] (2)「～思いやりの心をもつ」 (5)「～、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ」 (6)「～感謝し、それにこたえる」	○寛容の心を持って謙虚に他に学ぶことをより一層強調 ○「感謝」にかかわる内容項目を新設することにより、望ましい人間関係の育成を一層重視
[現行] 2-(2)「～感謝と思いやりの心をもつ」 (5)「～、謙虚に他に学ぶ～」	[新] (2)「～思いやりの心をもつ」 (5)「～、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶ」 (6)「～感謝し、それにこたえる」			
3 主として 自然や崇高なものとの かかわり	<table border="0"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [現行] 3-(1)「自然愛護」 (2)「生命尊重」 </td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [新] (1)「生命尊重」 (2)「自然愛護」 </td> </tr> </table> <p>○3-(1)と(2)の配列を入れ替え、「生命を尊重する心」の育成を最初に位置付けている。</p>	[現行] 3-(1)「自然愛護」 (2)「生命尊重」	[新] (1)「生命尊重」 (2)「自然愛護」	○小学校との接続や系統性を踏まえるとともに、「生命を尊重する心」の育成を強調
[現行] 3-(1)「自然愛護」 (2)「生命尊重」	[新] (1)「生命尊重」 (2)「自然愛護」			
4 主として 集団や 社会との かかわり	<table border="0"> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [現行] 4-(1)「役割と責任」 (2)「法やきまりの意義」 (3)「社会連帯」 (4)「公正・公平」 </td> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> [新] (1)「法やきまりの意義」 (2)「社会連帯」 (3)「公正・公平」 (4)「役割と責任」 </td> </tr> </table> <p>○4-(1)から(4)の配列を入れ替え、「法やきまりを守る態度等」の育成にかかわる内容を最初に位置付けている。</p>	[現行] 4-(1)「役割と責任」 (2)「法やきまりの意義」 (3)「社会連帯」 (4)「公正・公平」	[新] (1)「法やきまりの意義」 (2)「社会連帯」 (3)「公正・公平」 (4)「役割と責任」	○小学校との接続や系統性を踏まえるとともに、「法やきまりの意義の理解」についての指導を一層重視
[現行] 4-(1)「役割と責任」 (2)「法やきまりの意義」 (3)「社会連帯」 (4)「公正・公平」	[新] (1)「法やきまりの意義」 (2)「社会連帯」 (3)「公正・公平」 (4)「役割と責任」			



〔資料2〕その他の改善とポイント解説

項目	主な内容の改善点	ポイント解説
道徳の 指導計画	○校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して全体計画・年間指導計画を作成するものとしている。 ○内容項目は、いずれの学年においてもすべて取り上げるものとしている。 ○「生命尊重」「法やきまりの意義」「社会参画」などに配慮し、指導内容の重点化を図ることとしている。	○校長の方針の明確化 ○道徳教育推進教師の役割を明確にし、協力体制を整備することが大切 ○道徳教育と他の教育活動との関連付けを図り、重点化を指導計画に反映させることが大切
道徳の時間 の指導	○道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実することとしている。 ○道徳の時間に生かす体験活動として、「職場体験活動」を加えている。 ○生徒が感動を覚えるような魅力的な教材として、「先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツ」などの題材を例示している。 ○自分の考えを表現する機会の充実や情報モラルに関する指導への留意等を求めている。	○道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実 ○道徳性の育成に資する体験活動の推進 ○積極的に教材を開発し、その効果的な活用に努めることが大切 ○言葉を生かした教育の充実 ○情報モラルに関する指導に配慮することが大切
家庭や 地域社会 との連携	○道徳の時間の授業を公開するなどして、学校、家庭、地域社会の三者連携を図ることとしている。	○家庭や地域社会との共通理解を深め、三者が連携していくことが重要